



薰箱錄

和

借4
775
38



門才曾生
775
38

黨籀錄卷之十三

目錄

千代茂登州

多和禮州

秦中書院藏書



有客袖一冊子來視於予曰是惺窩滕先生述
儒學大意以諭其母氏者藏某家中相久矣僕
乃乞得授梓名曰千代茂登某千代茂登者在
中卽所答其母夫人之詞載在勢語斷章取義
不知果切否乎顧子題一言以弘其傳予繙閱
喟歎曰有是哉後學之幸也蓋先生爲中興儒
宗有大造本邦則以其首福洛闈之學也斯書
之出也論者或謂以先生之道德於化其母乎
何有且也心學之行二百年于茲孰不與開明
德誠敬之說者然區二國字之錄間或混乎佛

意豈足傳歟亦弗深思已夫婦人之難化固非
 男子之比別浸淫浮屠者乎昔君彦明以程門
 高足日誦金剛經曰是其母所訓不敢違也彼
 其平日不能諭母於道之所教也以先生方之
 豈不復哉此不唯道德之糾粹抑亦至誠之感
 化也已若夫解明德引證竺典以流轉後生談
 心則所謂約牖之語讀者逆其意略其辭而可
 矣

天明戊申秋八月後學固山菱實謹摺 印

牡丹園年三十三章

一ハ花をさすもいふくまをうてちをのきくさねをれ柳ハ
 かじりふおぢハ中央にいろとふくむのきはもむらうつく
 うひく珠のぬきくくくわやうなるたねありといふ九
 うくくくあつきのそくえあひあやうくさねをれもゆ之
 の風おころもわうてつくとれくいとまをりそめてけふの色
 ときくうたわあきくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くれと出あるえまのやうなりかたつともをさくくくくくく
 けままたららるるくくくくくくくくくくくくくくくくく
 かしらつてやうくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 かりぶの月おぢくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けけりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ありてはなり。今のところのちもくとして、一身の主人となり。
 凡のさし扱まらぬのちもくも、はてしなくあつて、ことごとく
 ちかきごとく、此人心天よりわきまありとわきまなく、ことごとく
 せいのたし一體のものなり。け天地の間にあるもの、けいゆの
 む天のさし扱まらぬのちもくも、はてしなくあつて、ことごとく
 乃ほくもさし扱まらぬのちもくも、はてしなくあつて、ことごとく
 りぬいふことなし。今のところのちもくも、はてしなくあつて、ことごとく
 としふ事なし。かゝるもくも、一念慈悲の心、其のちもくも、
 一念慈悲の心、其のちもくも、一念慈悲の心、其のちもくも、
 古語曰く、自性之内、有一顆之心、出靈智之光明。
 為自性之法身、出願慧之極大、為煩惱之牢獄。
 明德といふ、天よりわきまなく、わきまなく、わきまなく、
 一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 かり。天よりわきまなく、わきまなく、わきまなく、
 人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、
 人のあり。欲心なく、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、
 欲心なく、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、
 けたるもの、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 人欲のちもくも、はてしなくあつて、ことごとく、
 たり。一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 誠といふ、偽なり。是天の本體なり。吾友秋を古用なり。あ
 年、毛以次中、はてしなくあつて、ことごとく、
 さう、これに似たり。わきまなく、わきまなく、わきまなく、

一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 かり。天よりわきまなく、わきまなく、わきまなく、
 人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、人と人と、
 人のあり。欲心なく、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、
 欲心なく、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、平らな事、
 けたるもの、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 人欲のちもくも、はてしなくあつて、ことごとく、
 たり。一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、一と一と、
 誠といふ、偽なり。是天の本體なり。吾友秋を古用なり。あ
 年、毛以次中、はてしなくあつて、ことごとく、
 さう、これに似たり。わきまなく、わきまなく、わきまなく、

もくしんちのくさるゝもをく天の本體と稱しんらんふが心天よりこれ
 くるたよりく人むしつらうなれば日死ひの天邊てんのうきハ何あもだ
 天てんの背せいよりあゆるうぶせいなり君きみは忠節ちゅう就すふまゆ人ひとの意
 然しかんばどうも誠まことのこもくまふし
 敬かしこみ君きみは信まことのまもるこふも大事だいじをお人ひとのあひをらよ
 てららうとそを先まく大事だいじようあてつこふじさなりよみか
 信まことのまもつてなすことらも大事だいじのこらるゝ事こともつ
 ちかりむらほの所ところ他た代だいたらしめむせむと大事だいじのまふと
 敬かしこみなり又また君きみは信まことのまもる大事だいじの事こともつと
 信まことのまもつてつらうのまのなり信まことのこらるゝ事こともつと
 らむむらなれどおのれらひらむと大事だいじのまふとつたさ
 して信まことのまもつてつらうのまのなり

右 明德 誠 敬

は三ハコウめつこみなり

仁 義 禮 智 信

ことごと人ひとに日ひ敷し朝あさ言ことの所ところ他たなり

仁にハ人ひととあはれ意い慈じと目めでこを事ことなむ

義ぎハ無理むりのたさやまするを理りのかたよとむるなり

禮れいハ上の人ひととむまひ下したの人ひとともまはれくあひつらひ

とまふなり

智ちハ知ちある人ひととあはれむ仁にもせむしね事ことあはれ

ことまはす仁にありず禮れいいさねし不ふ禮れいなりさるも不

禮れいなりまはりの理りもつたはら成なり智ちあるなり

信しんハつらうなさと信まことしん仁にとはこまはら信まことを事こと義

礼の知を言ひ行はざるはえもいれり。礼のさなり。
夫も禮と體と。人も信と界と。さうなり。かゝのごとく
それども夫も叔も一體なり。

君臣 父子 夫婦 兄弟 朋友

これと五倫のうらまは又人の日くたれし所作なり。

君臣 君ははるがかり。臣ははるがかり。忠節とあるは
又君ははるがかり。臣ははるがかり。忠節とあるは
さうなり。あつたなり。

父子 子れ親のつうへうの孝行をいふ。親の孝の道なり
一とくちこれとさうなり。

夫婦 この間か夫也。婦もあつたなり。夫婦もあつたなり
一とくちこれとさうなり。

兄弟 兄は才とあつたなり。弟は徳とあつたなり。

朋友 友は中とあつたなり。友は徳とあつたなり。

右は五倫の人の日次の所作なり。其の徳のうらまはさうなり。
さうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
は五倫の徳とあつたなり。その徳のうらまはさうなり。
あつたなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
つと徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
其の上五倫の徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
と一徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
さうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
はらひの徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。
かゝるゆゑに。徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。その徳のうらまはさうなり。

此輩人心の長ちなり。又物知り人といふは元來よき人なり。
 只んとみらむにむねおき同なり。又賢能なる人にして人を知る
 事なくば、人心なり。教養とみれば、道なり。武道は、
 名と名を甘くたす人なり。ましく不願は、けり
 けり。かともひくも、おんおのふは、おのふのい
 命めらとまほす事ななりとせむ。ちかしく、
 其れは、はしむるなり。人となりて、まじり、
 やまらざるのうらととも、不調のぢけ眷属くおまほくおら、
未は、はら、ちして他人よのとなり、よも人心なり。けり。
 高きあり人、たるとあり、他、人のまづ、一人とあ
 るいとに、りあなり。
 悪人なるも、一代高き、宋あり、善人なるも、まづ、
 一

頼朝ハ
 義朝ハ
 誣カ

よあり。ことごとくあり。先祖の人善人の、意思とたはし。
 人とむくぬこと。其の子孫悪人なれども、善えり事あり。又善人
 とも、報ふ事あり。よあり。老るも、其人悪人なれば、一代
 う又ハ子孫むむ報ひく。ほうぶなり。夏の祭殿の討王。日本とて
 頼朝益ハ、誣むるなり。又悪人、不慮すましく、不貪貪みあり。
 天益ハ、誣むるなり。民とて、不慮すましく、不貪貪みあり。
 せして、有り。ちかしく、有り。財貨を、人のけりすあり。
誣むるあり。其一代ハ、外剛とて、夫の如く。又、有り。後あり。
 子、有り。たるとあり。おのふの、有り。おのふの、有り。
 あり。あま、有り。とあり。おのふの、有り。おのふの、有り。
 一、有り。おのふの、有り。二代ハ、代とて、有り。おのふの、有り。
 かし、有り。おのふの、有り。おのふの、有り。おのふの、有り。

道も昭穆よりかゝりてきりぎりすく、
うまきりいしよかゝりてあまつひつぎは、
あまのりてい冠裳さうかゝりての法さうか
てかゝりてい事なき、
めどりいしまれく雲霧のあまたなる日
うまきりいしよあまつひつぎは、
申時いしよねいしよぬいしよ
しうあまついしよあまつひつぎは、
わりといしよをなすいしよいしよ
り記

は國と兵の泰伯の後なりといふ、唐の世咸亨といふの事

ついで國の人をりこゝろまきり、
こりいしよをり人のがむいしよ、
だまを説のまきりをりあまきり

國史に考るる、
後をりいしよをりて神武帝は代より、
職方より得せしとて、
海道よりかゝりて、
其國をり、
多一書、
かゝりていしよあまつひつぎは、
ねのこゝろいしよあまつひつぎは、
よりいしよあまつひつぎは、

やうにちがふ

は同士のうりかたをばして夏商の風ちうり、聖蹟をして今に

世にあつて忠をばねらうと忠貞の問とてどしと事

周家も文章とをばさるひばり、王政のらんちうり、

おのちの官職規程とをとりかへりとのりせられ

衰季の志とをばさるひばり、武國の風俗とをばさるひばり、

ちがひらう事とをばさるひばり、そのあつてのちがひ、

えとをばさるひばり、そのあつてのちがひ、

同一のちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ、

自注、二月の服、夏后氏の禮として同姓不相娶、周禮の
ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

その代りの風俗とをばさるひばり、漢の時とをばさるひばり、

さつとちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

ちがひとをばさるひばり、そのあつてのちがひ

いふにわが國も亦も繁華なりと云ふにむづかしくわが國も亦も
いふにわが國も亦も繁華なりと云ふにむづかしくわが國も亦も

又がこれに關字なり事ば國のじりごとりこいれどくもさ
つらさもあると達キレチのうらり泣ひと云ふされどおほ大政もはり
ゆふゆふのあり大徳タイトクのあり事取らるるおほ大政の碑ヒありと
おほ大政もはり事と大元帥タイジンと云ふ關字一はゆふゆふの
おほ大政もはり人のいふ

は國ハ災異サイイと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
いのなきけと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よ命命と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
のまことありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
まじり告朝コクサウのむづかしくも云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

よそその万ねと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
かこいと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
れどがと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
とのこいと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ひりりも云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
その實ジツに云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
より云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
世の中にも云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
つらさつと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
かこいと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
素子素子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

かゆぐんやまぐり事もなぐすのいせうさる事もなぐば国の
とをれあまうけりしりるこわらやあろきむりこい金銀
のあひまろくば国ハさううと金銀のきくれば事えれ
るよあしあししりる人あ人のいふさなわくばせりし
主銀あらのれうまのば国ハ金銀のいふほどなり
けれど、うまと用りる人多うなうとも其價をやくきく見
ゆりてば国にあしゆふも其きくれば事えりこいさ
うにちびひきんば主銀用りる人あしきくされ候りや
くまうとゆたし人の奥きり事しりあしりハ米多きとあ
ひやとーしりるこい米の地よりせど事一段ふは
しりるうまよまてとあしりあしりたよりあしり地国
賣出たし事よりしりるがゆり其国のこいさと用ひ
しりる人あしりる價もわくさよりいふたきるぬ
某かしりる事とさうりしりるば国ハ者きりせん
しりる人あしりるば国ハ主銀多しこのうまさ
候しりるゆあしりるさうりしりるば国ハ
しりるはひや一或ハ地国ハかうりしりるゆり
しりる事ハかうりるさうりしりるあよりかくしり
かりしりる

ハ国ハ絲もぬれぬりこいさうりる人あしりる衣服
ゆりるしりるしりる人あしりるしりるハ国の絲
とさうりるしりるかひ替こいさうりるはゆれ
とさうりるしりるの王座ワラカをすめ候禮の禮とゆひ
ゆりるしりるしりるのさうりるゆりるゆりる

由名、脇^{ウデ}ありたり、片^{ヒラ}ねば、おんやま、道^{ミチ}ゆるは、是^{コノ}より、由^ユと下^カに、
 のよ、め、つ、ゆ、よ、り、し、り、り、り、り、ゆ、る、し、り、り、り、り、ゆ、り、り、
 と、ぬ、ひ、あ、い、せ、も、う、そ、ろ、が、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 び、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 わ、ら、た、ひ、い、き、り、り、び、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 ー、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 因^因の、常^常の、衣^衣、着^着、ま、お、れ、い、素^ス、襖^{アウク}、が、れ、い、ぢ、ぢ、ぢ、ぢ、ぢ、ぢ、ぢ、ぢ、
 き、ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 え、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 り、め、お、月^月、よ、り、八^八月^月、ま、で、い、羅^ロ、紗^セ、き、み、み、布^フ、九^九月^月、り、冒^{マウ}、ま、で、い、ん
 を、敷^{フキ}、き、ね、ほ、じ、ぎ、と、り、ん、り、り、き、と、き、し、り、り、り、り、り、り、
 今^{イマ}、お、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 二、後^{ノチ}の、は、い、ん、な、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 を、き、よ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 人^{ヒト}、れ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 自^ミ注^{ミツ}、衣^イ、服^{フク}、之^ノ、制^{セイ}、果^カ、能^ネ、如^{コト}、此^ニ、毎^{スベテ}、一^{ヒト}、件^{ケン}、省^{セウ}、帛^{ボク}、不^ズ、下^ル、數^{スウ}、尺^{シツ}、綿^{モン}、亦^{モト}、稱^{ショウ}、此^ニ、
 率^{ソツ}、域^{キョク}、内^ノ、而^{シテ}、算^{サン}、之^ノ、則^{ノチ}、為^ス、不^ズ、償^シ、矣^{ナリ}、
 衣^イ、服^{フク}、改^カ、制^{セイ}、の、仰^{オウ}、せ、め、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 脈^{ミク}、の、う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 道^{ミチ}、服^{フク}、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 礼^{レイ}、服^{フク}、便^{ベン}、服^{フク}、尊^{ソン}、卑^ヒ、上^{ジョウ}、下^ゲ、以^テ、り、り、り、り、り、り、

二、後^{ノチ}の、は、い、ん、な、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 を、き、よ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 人^{ヒト}、れ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 自^ミ注^{ミツ}、衣^イ、服^{フク}、之^ノ、制^{セイ}、果^カ、能^ネ、如^{コト}、此^ニ、毎^{スベテ}、一^{ヒト}、件^{ケン}、省^{セウ}、帛^{ボク}、不^ズ、下^ル、數^{スウ}、尺^{シツ}、綿^{モン}、亦^{モト}、稱^{ショウ}、此^ニ、
 率^{ソツ}、域^{キョク}、内^ノ、而^{シテ}、算^{サン}、之^ノ、則^{ノチ}、為^ス、不^ズ、償^シ、矣^{ナリ}、
 衣^イ、服^{フク}、改^カ、制^{セイ}、の、仰^{オウ}、せ、め、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 脈^{ミク}、の、う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 道^{ミチ}、服^{フク}、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 礼^{レイ}、服^{フク}、便^{ベン}、服^{フク}、尊^{ソン}、卑^ヒ、上^{ジョウ}、下^ゲ、以^テ、り、り、り、り、り、り、

久不易の腫ハ朱バクれぢしにむやま事うまあはば
あは人法や一さ紙びび一むきなてりれ一年月のふゆをか
さうひむじきもようんしる入をふのあはくなりそのな
大災よあひくられし今もとりひてあひきなりたりふをせ
のむぐ一むきしうよあり一はしる人よあはむあはむなる
こもも大災よあひてだれをむきびび一むきふなりたりこのは
きくよぞせの南白ぐれ一しる人集一しふぢいしう月ありて
大災あはばせの南白くちりて一むきよま事おがしむぢふ
より一しうぢありていぢ一しゆゆかんむとあひこれとせ一てハ
うまとせん本紙あひてふわぢ一いぢもだれどもまきちや
あはつしうま事いづとせもむまぢ一しゆ一とせもれてあはや
せんせんふあり一

山科ヤマキのうほく佃業なま佃業はあはこあはこあはこ一に道ゆく人カキのしうち
袋紙フクロあははり紙紙せき紙さう紙さう紙ま紙かけあがりよひくがせん
とん紙なま事ぞせしうぢ一とせふあはもむりやませのま
らひさうたづ紙さう事よかまひくわがなま紙をあらせといひ
たりとせんこの人ハ荷カ普キ夫人ザウシのなまひま事一
埤サキ仁徳帝の沖陵サキとけり法帝れま今ものこうてこ
ま紙らむひよあはやまのし一
しうとこのまぢりしあり人ハ國の法一まがひ族葬ツクサウま事
そり方孝孺ジユの文集よそのまけとけくしうもつともなると
あはんゆりまは國遠慮まあはひけりしる人ハ國建とせ
ふのしうぢ村里つてしうまづしうまぢあはとせしうまあり
人とせしうぢとせしうまぢ中しうまてしうぢのわぢりあは年

治りな後古の墓墓を發してわきに立てて
かきしめておきよするに
後發に跋つて

は國ハの諫官もなく大目附大目附をもつた御史御史の職職もあつたこと、彈

劾劾の式式も同じく、ハの式もひたつていふ人ありとて因ハ今も

れもゆりしうしある或あつた人いふれ也これといふたぐ

てもようしうしあるもあつた人いふれ百官うしありしうしありしうしあり

むしりありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

もあつた人いふれカシタの諫官カシタなりし

いす

漢セツクウトリの諫官セツクウトリが船ふね危にあつたこと船ゆき橋もあつたこと橋

ら車の車紙血あつてけがんとしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

しうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

白麻ガ紙ガをかんしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり
しうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり
宋儒ソウコの諫官ソウコとて陽城ヤウジョウとてけがれ論カレロぜりしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

その子ありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

をいふはけがれしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

しうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

や誘さしきりしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

はよのちありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

その子ありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

あつたことしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

しうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしありしうしあり

よそのあやをこれ年をけむるものか
らぬ事なりんか
流事、さういふはつてさうや
はらうぬし、さよのまはまを
とくさうきふと、かたれふ人あり

成人やん、あやをこれ年をけむるものか
らぬ事なりんか
流事、さういふはつてさうや
はらうぬし、さよのまはまを
とくさうきふと、かたれふ人あり
成人やん、あやをこれ年をけむるものか
らぬ事なりんか
流事、さういふはつてさうや
はらうぬし、さよのまはまを
とくさうきふと、かたれふ人あり

くま、いそのありをけむるものか
らぬ事なりんか
流事、さういふはつてさうや
はらうぬし、さよのまはまを
とくさうきふと、かたれふ人あり

世の中が、いそをけむるものか
らぬ事なりんか
流事、さういふはつてさうや
はらうぬし、さよのまはまを
とくさうきふと、かたれふ人あり

あれはトモ子（トモコ）の事か？ 又むき... 松某のあひり...
 昔の人々の害ある事はいかゞか... 其事...
 徐景山（ジョウケイサン）の通介（ツウケイ）...
 ...

乳の子に痲氣（カンキ）と...
 ...

わろ人の物終る毒蛇（ドクヘビ）のわ...
 ...

わ...
 ...

ちぢむ...
 ...

許胤宗（キヨシウ）の古之上醫病與藥值唯用一物...
 ...

ある人その...
 ...

行讒毀併興雖有善者難以為防而已矣或問賄賂行焉
讒毀興焉何獨郡縣日鈞之利也商者之違々酷於工者
之役々勢使然也

かゝ固れ其のさは^司うさる人^{大勢}おほせいとうまひ^{チリ}きりふ^{チリ}朴
射夫^{セキフ}といふ^{オキナ}翁^{オキナ}ひそうたわらう^{オキナ}い^{オキナ}わづ^{オキナ}くも^{オキナ}郡縣のせよて
ト^{オキナ}なり^{オキナ}その^{オキナ}よ^{オキナ}ら^{オキナ}み^{オキナ}や^{オキナ}ら^{オキナ}さ^{オキナ}ま^{オキナ}は^{オキナ}自^{オキナ}他^{オキナ}に^{オキナ}ゆ^{オキナ}ら^{オキナ}く^{オキナ}言^{オキナ}は^{オキナ}お^{オキナ}ほ^{オキナ}く
又^{オキナ}い^{オキナ}より^{オキナ}ひ^{オキナ}そ^{オキナ}ひ^{オキナ}を^{オキナ}お^{オキナ}こ^{オキナ}な^{オキナ}ま^{オキナ}れ^{オキナ}て^{オキナ}あ^{オキナ}り^{オキナ}且^{オキナ}た^{オキナ}な^{オキナ}い^{オキナ}さ^{オキナ}う^{オキナ}え^{オキナ}ゆ^{オキナ}ふ^{オキナ}よ^{オキナ}い^{オキナ}お^{オキナ}く
う^{オキナ}へ^{オキナ}世^{オキナ}の中^{オキナ}あ^{オキナ}は^{オキナ}川^{オキナ}う^{オキナ}を^{オキナ}く^{オキナ}じ^{オキナ}ま^{オキナ}う^{オキナ}ぬ^{オキナ}其^{オキナ}は^{オキナ}固^{オキナ}の^{オキナ}ま^{オキナ}な^{オキナ}人^{オキナ}その^{オキナ}分^{オキナ}定^{オキナ}り
き^{オキナ}ら^{オキナ}う^{オキナ}ら^{オキナ}う^{オキナ}や^{オキナ}ら^{オキナ}し^{オキナ}と^{オキナ}お^{オキナ}ほ^{オキナ}ゆ^{オキナ}き^{オキナ}い^{オキナ}り^{オキナ}い^{オキナ}ま^{オキナ}さ^{オキナ}ふ^{オキナ}ん^{オキナ}事^{オキナ}なり
よ^{オキナ}く^{オキナ}お^{オキナ}と^{オキナ}ふ^{オキナ}人^{オキナ}い^{オキナ}ま^{オキナ}ら^{オキナ}へ^{オキナ}

周於^{ヘキサイ}報^{ヘキサイ}王^{ヘキサイ}の^{ヘキサイ}避^{ヘキサイ}責^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}う^{ヘキサイ}て^{ヘキサイ}な^{ヘキサイ}と^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}け^{ヘキサイ}け^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}い^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}あ^{ヘキサイ}り^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}固^{ヘキサイ}の^{ヘキサイ}
か^{ヘキサイ}じ^{ヘキサイ}つ^{ヘキサイ}く^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}く^{ヘキサイ}し^{ヘキサイ}その^{ヘキサイ}く^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}く^{ヘキサイ}の^{ヘキサイ}む^{ヘキサイ}ら^{ヘキサイ}さ^{ヘキサイ}び^{ヘキサイ}う^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}お^{ヘキサイ}な^{ヘキサイ}く^{ヘキサイ}祖^{ヘキサイ}税^{ヘキサイ}

の^{ヘキサイ}納^{ヘキサイ}も^{ヘキサイ}か^{ヘキサイ}り^{ヘキサイ}な^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}に^{ヘキサイ}債^{ヘキサイ}没^{ヘキサイ}を^{ヘキサイ}ふ^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}の^{ヘキサイ}そ^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}門^{ヘキサイ}は^{ヘキサイ}む^{ヘキサイ}し^{ヘキサイ}り^{ヘキサイ}あ^{ヘキサイ}ま^{ヘキサイ}又^{ヘキサイ}に^{ヘキサイ}
^御興^御と^御ま^御を^御う^御ゆ^御も^御は^御は^御ら^御う^御ま^御あ^御り^御し^御ふ^御む^御く^御お^御ほ^御る^御ま^御を^御ん^御て^御
あ^天ま^天が^天ま^天の^天あ^天ま^天を^天ら^天事^天没^天ら^天く^天し^天ふ^天は^天な^天や^天ら^天は^天お
は^天ゆ^天や^天或^天人^天の^天う^天ら^天さ^天

ね^天あ^天く^天し^天る^天もの^天い^天つ^天の^天ま^天ま^天ら^天う^天は^天ま^天ら^天く^天ん^天あ^天る^天ま^天や^天ま^天の^天
あ^天ま^天く^天あ^天り^天ま^天ら^天ほ^天ひ^天し^天ね^天あ^天ま^天を^天ら^天し^天い^天ま^天の^天何^天候^天り^天
ま^天く^天借^天債^天の^天う^天ら^天ま^天ら^天あり^天し^天は^天ま^天ら^天ま^天を^天ん^天し^天ま^天ら^天り^天ま^天り^天
ま^天を^天ま^天を^天か^天ら^天ま^天ら^天ゆ^天り^天の^天ま^天を^天れ^天は^天お^天ら^天ま^天を^天ま^天ら^天は^天ま^天を^天見^天
ま^天に^天人^天の^天う^天ら^天わ^天り^天し^天い^天ま^天ん^天や^天

い^天り^天に^天徳^天政^天の^天い^天ふ^天事^天を^天ま^天ら^天あ^天り^天し^天か^天ら^天れ^天と^天ま^天ら^天中^天
か^天く^天を^天り^天て^天は^天礼^天を^天ま^天ら^天事^天を^天う^天ら^天ま^天ら^天ま^天ら^天ま^天ら^天道^天を^天ま^天ら^天人^天
の^天い^天ふ^天し^天と^天ま^天

あるものありしは人のあきまひあつたりてむら—物候なり候運ヤ
ふがはまことおとひゆるとおびり下たすひを分岡の民とも年
貢運におもむきしうねか—らうらうものをもそのはら
あまきりてあまゆにこのころ—なれ何—とのあをれな
もとむると哀訴アイソとらひあるとひとひ村うさひニス村にひ一あり
あ—ニ海郡りもらび諸とひあをせ困れこの事と執執人のあま
却—りりほむようの—せ是非ひとくろひのあらと要訴要訴とらふ
されと民の哀訴アイソとらむと礼の—りをもとこれ人のあまやま
いほさ—ぶと—おらさおされと—のあま—
き候とやま—と踏仰タテウツとありてそのやまひと瘞イラせいあまは
何事うありと—民のくろ—み甚—くせん—まき—要訴要訴
ちり—りしていづれ—みはま—あかくなれとよる人が

—り—は—い—う—あけ—出イキ候—りハ世の批判ヒビをくおをき—
なわき—と—あけ—を—と—を—し—あれどたひ—
なりまたらびてハか—ら—ら—は—の—た—あ—ひ—
—と—あ—り—あ—り—の—あ—り—の—あ—り—
とあつりなり入ハげ—と—あ—り—刑罰とておさめんと
らま—オキナ神オキナあ—と—病ハと—ハな—ハ醫イ沙サま—と—ん—と—極茶イラ
との—ヒ元ヒ氣キ候ク符フとられ—政は—道ミチが—なりてハ礼と
さる事—を—う—ら—と—の—を—う—と—ま—と—あ—り—と—病ハありて下
を—ら—と——は—ま—の—も—も—政朝アサの—と—が—は—記キを—い—ま—れ—を—ら—が—と—く
礼の—り—と—あ—ふ—り—と—政世セの—政中ナカと—ら—り—と—ふ—と—い—ま—る—ら—と—
つ—と—あ—り—もの—を—ら—ぬ—あ—り—あ—り—人の—を—と—れ—て—あ—わ—わ—く
—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—と—あ—り—

文政十三庚寅年上巳日於益城郡礪用郷
写之
中村直衛

芳洲先生たゞれ忍科中

塞翁^{サイオウ}がむまれき^{サイ}人の得^{ウチ}の^{ウチ}うらり^{ウチ}は夫^{ウチ}ありあり失^{ウチ}との
うらり^{ウチ}得^{ウチ}の^{ウチ}あまを^{ウチ}むらり^{ウチ}も^{ウチ}あら^{ウチ}び^{ウチ}と^{ウチ}あ^{ウチ}ふ^{ウチ}なり^{ウチ}た^{ウチ}り^{ウチ}失^{ウチ}
あも^{ウチ}う^{ウチ}終^{ウチ}下^{ウチ}り^{ウチ}なき^{ウチ}こと^{ウチ}事^{ウチ}取^{ウチ}り^{ウチ}なり^{ウチ}や^{ウチ}り^{ウチ}せ^{ウチ}り^{ウチ}
る^{ウチ}も^{ウチ}う^{ウチ}も^{ウチ}む^{ウチ}ら^{ウチ}く^{ウチ}奉^{ウチ}け^{ウチ}長^{ウチ}城^{ウチ}と^{ウチ}築^{ウチ}る^{ウチ}は^{ウチ}忍^{ウチ}政^{ウチ}法^{ウチ}第一^{ウチ}
なれ^{ウチ}ど^{ウチ}弟^{ウチ}世^{ウチ}は^{ウチ}あ^{ウチ}せ^{ウチ}く^{ウチ}け^{ウチ}る^{ウチ}取^{ウチ}る^{ウチ}を^{ウチ}こ^{ウチ}あ^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}う^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}
事^{ウチ}あり^{ウチ}參^{ウチ}者^{ウチ}は^{ウチ}なる^{ウチ}良^{ウチ}茶^{ウチ}いな^{ウチ}なき^{ウチ}こと^{ウチ}補^{ウチ}や^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}病^{ウチ}候^{ウチ}
補^{ウチ}ひ^{ウチ}人^{ウチ}は^{ウチ}い^{ウチ}の^{ウチ}ち^{ウチ}と^{ウチ}あ^{ウチ}や^{ウチ}ふ^{ウチ}は^{ウチ}た^{ウチ}ら^{ウチ}り^{ウチ}あ^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}り^{ウチ}あ^{ウチ}は^{ウチ}な^{ウチ}
こ^{ウチ}た^{ウチ}り^{ウチ}し^{ウチ}ひ^{ウチ}者^{ウチ}とい^{ウチ}つ^{ウチ}は^{ウチ}き^{ウチ}き^{ウチ}ふ^{ウチ}た^{ウチ}忠^{ウチ}い^{ウチ}なき^{ウチ}れ^{ウチ}ど^{ウチ}醫^{ウチ}拳^{ウチ}が
兵^{ウチ}と^{ウチ}き^{ウチ}て^{ウチ}い^{ウチ}き^{ウチ}め^{ウチ}郭^{ウチ}巨^{ウチ}なる^{ウチ}何^{ウチ}ん^{ウチ}と^{ウチ}せ^{ウチ}り^{ウチ}忠^{ウチ}孝^{ウチ}の^{ウチ}う^{ウチ}
ち^{ウチ}は^{ウチ}あ^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}り^{ウチ}り^{ウチ}の^{ウチ}お^{ウチ}の^{ウチ}か^{ウチ}と^{ウチ}あ^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}き^{ウチ}い^{ウチ}お^{ウチ}り^{ウチ}
つ^{ウチ}し^{ウチ}む^{ウチ}は^{ウチ}む^{ウチ}ら^{ウチ}この^{ウチ}と^{ウチ}し^{ウチ}く^{ウチ}の^{ウチ}こ^{ウチ}か^{ウチ}と^{ウチ}あ^{ウチ}り^{ウチ}き^{ウチ}き^{ウチ}い^{ウチ}お^{ウチ}り^{ウチ}

あらは道徳のよしんするべし

世のみだれなる時ハ勇猛なる人よりなるかまことむねゆ、私シの
うみをもて人としりしそのとあらとらりのきやむとらる
はかしく大なるはれ人なれどこれハさうもの人なりとて
いつきの国もまがくまひあうどくりみゆをしそれうし
いしけなき時むハ礼後の餘風のなきやうだがね事を
ゆきりよありし

父母のあはれはさうも天下はなれし世ぞしりも月の季世キセイの
中礼國となりこのよの辨念ハツレンの國よかをもておぬいし
叛城ハンシやねくの風儀をやりきり時の事なるべし今其時を
まことにやまゆのほりまてなびりぬ事本もなきがをきき
一統トウの所代ショダイなれば人のおやばあせしああはるばいも

してきつひのせし其つも城なごりしはぶきふそのふまうせ
おうまを殺コロシの權ケンと下よかし流ハハいなるゆゑもや
ゆしとこのせふやつこあればどうなきおや親あは兄はぞはまお
こなまらりしはいし

うしやぶどしと死なふハせしや功ありし人のあまなく
なりまもまなるものハ父母あふしきつむなされし流ハ
浪ナミありありさゆつしきしりし

喧嘩ケンカち成敗しりし事昏墨賊コンボクゾクハころをせいつ春秋傳のれ
そむきまよく若流ニギハヤヒなりやいし事おさうらうなりや
おほやあれきうしものあけらるわいしとらハ其はね
まびしにおさる職吏シヨクシハ棄市キシをたれいつ宋祖ソウソの法よかな

しり

ざりし時代のちがひあれはなり。そ一賢人として比國
に生まれしは比國のときよに成らんが樂は比國より夏に
比國より一掃^{イナヤク}よりありし。虞の樂^{ガク}夏より申さるる比夏に
樂^{ガク}商よりふらむ比商の樂周より申さるる比秋に
とらこ一わりの樂は比國よりふらむ^{異國}よりふらむ事とあるべし
こころは樂を今よりあらひしころの樂を比國より申さるる
まうらむと一の一方故より百病と治せんといふ人
人の心と感と風と一移と易とありしをまけとま
をりし。

自注此言唐土之樂不可用也

伶^イ人の^傳は比國より一わりの樂のこもねく比國を比く
まるとまくれしそのうら^{ヒマツラク}廟樂もあまたあはれむらハ依樂^{シヨク}よ

てあつても^音舞容^{舞容}ははりあつてもあつても^音歌^音はなすし^異

くの事は比國より一わりの事とわらふ人かまをせたくねと
ひ^開り^開き^開かり^開事^開も^開あれ^開ど^開の^開事^開を^開入^開る^開事^開の^開國^開は^開應^開

音^音樂^音は^音ど^音き^音ふ^音り^音し^音の^音い^音き^音し^音こ^音の^音て^音り^音お^音の^音つ^音ら^音志^音

人^人より^人ゆる^人や^人こ^人の^人あ^人は^人り^人人^人の^人い^人と^人ぞ^人の^人國^人は^人應^人
なり^音も^音と^音し^音樂^音を^音と^音て^音ら^音り^音お^音も^音り^音く^音し^音く^音
なり^音も^音は^音人^音は^音は^音ゆ^音り^音を^音樂^音は^音ま^音け^音の^音お^音き^音も^音あ^音り^音ど^音と^音

くにの音を^音なれ^音は^音なり^音

は國の樂^{ガク}の^{ガク}こ^{ガク}ろ^{ガク}を^{ガク}比^{ガク}を^{ガク}り^{ガク}つ^{ガク}樂^{ガク}は^{ガク}ひ^{ガク}ら^{ガク}ふ^{ガク}い^{ガク}ま^{ガク}の^{ガク}あ
く^音あれ^音ど^音その^音こ^音ろ^音を^音比^音を^音り^音つ^音樂^音は^音ひ^音ら^音ふ^音い^音ま^音の^音あ
ら^音は^音比^音は^音お^音は^音や^音け^音の^音あ^音ら^音ま^音ひ^音ら^音ふ^音く^音の^音ま^音ぐ^音ま^音み^音を^音比^音を^音り^音し^音
ともなくともいふや一あつてもそのころを^音あ^音ら^音ま^音ひ^音ら^音ふ^音く^音

あり人の血氣^{ケツキ}はとて^生れつづるまじりや一さなま
事うわらるゆあ^んやあ^らふ^さを^紫の^こも^を取^らつ^て一^むに
ま^まに^しま^はれ^そこ^をふ^ゆ多^んなり^とし^るを^がえ^ひあり^せて
う^なし^くぞ^おね^ゆれ

ある年^しけ^くあ^らば^ち一^人め^づく^しは^あま^りふ^疾風
心^きま^さく^しは^らひ^なま^くい^はら^せお^さら^るふ^とつ^しも^夏
の^事ま^そを^あく^あつ^たに^こひ^がま^らぐ^して^いま^さら^な
み^そり^あま^りし^て黄^疸の^こも^を病^て死^なり^たれ^のこ
う^いは^れと^るて^とま^ま子^いさ^ぞ也^れは^ふこ^ろも^なく^らう^く
し^じの^そこ^をふ^さり^しと^まぬ^こう^くら^をし^れあ^る
事^にま^りあ^りま^もあ^らぬ^これ^は似^しる^こし^にお^ほし^らう
ある^切ら^さむ^のつ^らさ^む人^まを^取ら^つら^むお^ろう^らふ^く

い^うは^れし^ては^なふ^あま^りふ^らさ^なも^考へ^よそ^れ因^ら
か^くま^れは^より^かく^まれ^はあ^らふ^こし^にふ^こし^にあ^らふ^こ
知^れを^かせ^ふあ^れは^かれ^きび^くし^なし^らる^よ
き^みど^もこ^うな^らう^らり^らう^らは^れる^にげ^とま^り
と^れを^おね^うん^やし^もれ^はお^の無^たあ^らし^なく
い^ちり^にい^はれ^らし^きみ^の事^はお^の人^はよ^りの^う
ち^よび^らり^もあ^らう^らう^らは^れる^をお^の人^を
と^くお^のゆ^きど^もその^道は^たれ^らり^てた^のら^うみ
と^まか^らら^るや^郭橐^駝の^こも^の樹^は枝^は事^をい^ひ
し^しと^まら^るも^おね^ゆれ^る

自注孔子有無郵之諺子產有郭殺之誦或云是也氏難
與慮始^しむ^らう^こし^に人^の事^は先^と事

下
たつんと思ひ、そのとより欲んごとく得失と論ぐべし、
は段のそ紫を非ありて

いふ所ぞち思ひて、こゝに人たなき事いづくせよとなくその

事成りては、父母妻を成や、たよりのふらぶらり

もあり、さういふいふあり、かの國の地あり

かゝりて、よるゝとれど、ば國をさへいなり、かゝりて、事

ありゆゑ、さういふ、このこと、先聖先王の

流あり、め、ある國を、先代、そのこと、りて、國たより

一、時、國は、民も、さういふ、文、いふ、さういふ、つらんや、

さういふ、人の、さういふ、さういふ、さういふ、農業、よ、か、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、さういふ、

ア

漢世掌故、文學、つる官、故、ま、け、られ、その、時、大、臣、故、

兗州縣の、所、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、武、功、の、臣、を、不、孝、の、人、か、

う、り、ゆゑ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、さ、う、い、ふ、

さうまゝなる人おぼらう。李晟張延賞が事なごといひめて
せや志るべし。漢のせまじし人となり事とぬうごむ地を
わくむといふもまきまき人となり。詩賦をよみて
あつたむごれく武功ありしうりより人ごうよりし
る人ごらむ。そのくわあうれし人ごらむ。世のり
かりし耐るるん。公勇不勇取るのまきむ。才徳より
あざやうなるゆゑや。そのうりたりし。大匠の風あ
るし。いそれ人ごらむ。いば国も世の中ごらむ。い
ちも國の志あつたる人おぼらう。武功のまきむ人又ハ
その子そむし^孫ごらむ。そのたごらむ。いばいば
なくよ下おそれば。ごらむ。そのあつたる人ごらむ。
いば洋のくごらむ。いばいば。そのごらむ。いばいば
いばいば。親^キ者よりいばいば。いばいば。いばいば。いばいば
たのほし。いばいば。いばいば。いばいば。いばいば。いばいば
あつたる。いばいば。いばいば。いばいば。いばいば。いばいば
とく

芸窓筆記云或曰某公以創業元勳儼處鈞軸之任處分
謀畫照耀史冊唯其不崇可謂樛楠之微朽矣曰漢初宰
相操行氣節可稱大臣之職者多出於不學無術之武人
如曹參周勃申屠嘉周亞夫霍光是也其他出於文臣者
大約碌々無可齒者獨有一公孫弘文章才術非他人比
然曲學阿世徒足以欺愚俗尔及其衰也所以嗶咻嚚
係寵固位欺時君長厲階結姦黨以煽^煽光焰遂成賊^賊荼^荼移
鼎之謀如谷永杜欽張禹孔光之後者豈非當時所謂碩

儒耶然則武人未必可信而文臣未必可信蓋心術正則
文采風雅雖有不行足自可以居輔相之位否則徒是
美觀聽而已矣其於天下國家後何益乎後世學者心術
之不修而唯文學之是務本根之不究而唯繁文飾飾之
是急幾乎孟子所謂放飯流餒而問無齒決可慨也夫難
江戴定以後上自大藩下逮侯國凡主乎政治者皆後斬
將塞旗中出然大抵朴實謹慎不敢放縱而操行氣節卓
然不群者亦復不少蓋其心術正也及至近世文教稍興
人誦詩書然率皆非養望自高則依阿取容比諸昔時未
見其鬚鬢蓋其文華勝而心術有所不足也鄉里無醫藥
而病人寡都邑有醫藥而病人多非醫藥之能害人也酒
色之人而恃乎醫藥所以致病也此言也可以譬諸心術

不正而徒誦詩書其得罪於名教也愈益弘矣由是觀之人
之學與不學且非所論唯願心術如何與所以為學之方如
何耳

ある人の物事をいひしむるに
らんぬをいふやふしりハ武術ありそのなりやあつて酒
色とこのと違ふをいふは人のわが恥ぢるやあつて
そのいふ華靡をいふは人のわが恥ぢるやあつて衰微をい
ふは人のわが恥ぢるやあつて事あり
その時ハその困先ハいふは人のわが恥ぢるやあつて事あり
そのやふいふは人のわが恥ぢるやあつて事あり
そのいふは人のわが恥ぢるやあつて事あり
そのいふは人のわが恥ぢるやあつて事あり

胃ハ節ハ大

さういふ格物致知の極功をこころへ一草一本の微をりま
でしつゝさういふがさういふ本注の物に事おこし
るはさういふを思ふがゆゑ先王の大學致知をうけて人
成す一徳ふいす徳人とならびせし士もまたさうい
ふ徳を徳といふては朝家の補佐をうけてしつゝ一郡
一縣に治りさういふ天下國家の法平にいつゝなすんとの
半をりた第一さういふと申ふべし人倫の徳をいふはなん
かものさういふ本の徳をいふはさういふはさういふの徳をいふ
さういふはさういふの徳をいふはさういふはさういふの徳をいふ
は事とさういふさういふ王氏はなんの徳をいふはさういふ
られいふはさういふはさういふはさういふはさういふは
未定の徳をいふはさういふはさういふはさういふはさういふ

いふは徳をいふはさういふはさういふはさういふはさういふ
その徳をいふはさういふはさういふはさういふはさういふ
徳をいふはさういふはさういふはさういふはさういふは
さういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
さういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いふはさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
思ふはさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
してさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
備萬端これさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
徳をいふはさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは

格物致知といふ事その徳はさういふはさういふはさういふはさういふは

城よりすむものさちやとまわるとあり柳生のけいり
澤菴和尚は紫沙茶風かくら成るておのけ法を悟り
しつるさもありてはねである人のときしよとやこなる
人茶飲よくせううさふのいよるぬ茶共よ一ばいなる
にぞれういば茶とて飲飲とめゆめくこころをそれね
しよをちりおとねをひよしよぬいよくしよとん
小藝小枝とておがふありさなるゆあり古人の茶葉よ夫
下は泥ハ一なりとくおわくはとちりくおありしなり
茶をとりしよあなれぬ四飲とてめ^軍さなるよなよとて
ゆまありあり茶とよくせりる人のこころを茶飲よく
せんとならぶ心の工夫をたたくしよとてさしよとて
福の茶うらふはあり

學問をりぬよさ事いなく又學問をりぬおそりし事い
あしよせられたる人ものまきびりたるあり
あつものおりしとてをくするひくひくおれび
ていりくたわられたるむられたるやあふ人の物あり
ふらたなれたる人又いけいあひさるものちりはくして
あつやとてしよとてありしひくひくおれび
ていりくわしよとておしよとてものびつもの神樂
よりをみ茶回せざるものやあるれど氏とていなる回をわ
かりきりなとていしよ今おせよとておしよとていなる人
よりしびびくもんあつるしよとておしよとていなる人
莊子の儒者の詩書はてはうとあ^家とていなる^家誦^誦を
あ

ためうちとときいたためほらとねいたためきねいたためきと
ほらほらためとらとを多女法愛をりおねよと法ハ料
とんぞととあけはるをりトの字をそのかきりして
たていついよとて何とてうからたては成えてやうい吐きとてい
くろくくおとふよのつひはあくすまねかきとたため
りよふ世の人とてとやせる流も多しある人の臆返よこハ
水は火とてい人のそそきとてかきハ東方の震雷木をり
今もふとて固よといつちとて事成をれりてのそそき
かきとてり流やといりよとて西方の光金光ハ説をりといふ
よつとてふおしとてりはひのそそきよとてふおとてい
たためハ民をりハ人なり、春鱗夏羽秋毛冬介おの
くし鷹をりおありハ中央よとてわとて六月は土よ鷹せ

るゆゑ土成よあといひ新をり、亀トのよハ漢の時よりあき
りなるとてうのよ、褚先生ははひとてもういふ所く今成りこし
よと、亀トといつとをそ名とかりとてはるありおとて法よあ
りハ成固よとハ授様をりといひとてあつとて事成とてり
かきとてとていといふとてハ宋人の燕石ハ似たりとて
多し
私云、依女ノ依ハ、元ノ假名、笑ハ、志ハ、假名ナリ。モシコノ吐著加身依女ノ文字、
上代ヨリカク書キ来ルナラニハ、笑ハ、説、總ナラザルニ似タリ、凡、古事記、万葉集
等ハ、勿論、順ノ和名、鈿撰、モテ、頂、マテ、ノ書ヲ見ルニ、假名ヲ用ル、其、甚、正シク、シテ、
其、義ヲ、誤レ、ナシ、故、今、清書スルニ、前、ニ、ハ、元ノ假名ヲ用ヒ、後、ニ、ハ、笑ハ、義ト、説レ、
以テ、志ハ、假名ヲ用ヒ、タリ、此、書ヲ、清書スルニ、カ、ル、
尚、ハ、カラ、ズ、見ル、人、此、コ、ロ、ヲ、エ、テ、見、玉、シ、テ、コ、ソ、
内則のよとて、雞とてめて、ちとて、なま手あつひは、そとて、なま
とて、とて、りりちりちりあきねとて、髪とて、ゆとて、いひ
ゆとて、いひ、おとて、なま手あつひは、そとて、なま
ゆとて、いひ、おとて、なま手あつひは、そとて、なま

るをもちりて安否をよくなごし泣くをり女は二十うて
嫁一男ハ二十うてめをなごりて愛おむあいの
あやう、まきれ縁といそごぶ、^損おどるは道もあつるわつらふ
どり成らうあをを、^損お法のそんぢりゆい、^損おどるあつるゆは
大防と志免一泣ふなり、あつらひ二十三十かぎりなり、^仕
あつらひ、^仕お十うては、^仕お十うておまをなり、七十を^仕なごりて
か^致をなごりて、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
よめ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
とうのち、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
い、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
わうけ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕

兼取とあり事か、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
ひ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
わ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
か、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
績、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
と、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
ら、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
ふ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕

か、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
ら、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
こ、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕
又、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕お十うては、^仕

井ノ下知一翁はこれより一説あり終にぞし
あり終にぞし一説あり終にぞし
人たるをよのなるはひのよのあひし
あひみのけをねむけあひし
あひしあひのけをねむけあひし
あひしあひのけをねむけあひし
あひしあひのけをねむけあひし
あひしあひのけをねむけあひし
あひしあひのけをねむけあひし

世に名をとりしは学者おほくあり
氏やとくしんしひ一人ありし
世に名をとりしは学者おほくあり
氏やとくしんしひ一人ありし
世に名をとりしは学者おほくあり
氏やとくしんしひ一人ありし

陶ありてもよは堯舜中一は唐虞は治い
ろく一はたも学者とるその
弱たりしひありて一様を
ゆき上よわやうさむた
治黨蜀黨をとりし
学者をたはひしあひし
自然の理勢をりし
あひしあひのけをねむけ
あひしあひのけをねむけ
あひしあひのけをねむけ

むいかにたりし事今おほいなる
たふ事一社社の右左い上下無為し

學者の如何を以て議論をせらるるにけりしかるありき
ならん人々もあらず事なれどもあらず。個鑑^{カウケン}を以て
以る書物も名儒の議論とありて先より公認せらるる。封
建の固執とせしむる大抵をいふ。そのありしありし
ありしありしあり。伍子胥^{ゴシコ}の死ありしにひて君臣の義
をいふにあらざりし。そのありしありしあり。赤穂の
事あり。宇内入いひひ公をいふ。そのありしありしあり
たりありあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
らきといふは載^{サイ}許^{キョ}あり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
りしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
たり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
あり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり

若のりしありしあり。命官然らる。そのありしありしあり。そのありしありしあり
感。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
まほらる。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
かの四十八人の名とて。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
そ。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
ふありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
若のいひしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
漢の宣帝の俗儒の時宜^{ジヤイ}と達せし。そのありしありしあり。そのありしありしあり
として今も非^ヒ。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
さ。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
か。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり
り。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり。そのありしありしあり

のこせしオウガ囊沙サしりる事しう今イ用ヨウふなれぬ水ミヅ灰
より道ミチ返ヘあさむくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
しりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
ゆらんやし事コトより人ヒトのつひしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
もよりしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
おほいなりあはれしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
ここのはしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
そて御キョ出デりものハ馬ウマの積ツキとほくさむくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
制セイまりものハ事コトは愛アイし達ダツせむくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
人ヒトにさりありしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
敬ケイの家イヘ主ヌシ一無イチム適トクくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
畏イしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる

しりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
よりけりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
うさむめおつりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
か的事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
てきしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
敬ケイの工クニ主ヌシをさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
のびしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
敬ケイをさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
衣イ冠カンとほくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
つらむしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
人ヒトのつひしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる
あさむしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる事コトもさめし山ヤマ子コのわくしりる

多岐のついでにこれをもりこいばあまびのまはなれこれ
しよあしあしあまもさう

春がさむをどるのころは雨カの字ありし頃の町よりあや
まりて雨段の家は用あれこれほたりきりゆよ彩霞サイカ
まといしこのころをどくころをくつれおをるうた
しりり水煙山煙煙景煙柳をどる火はたぐりより
あまびのすけあまの事なり

士より少を奉る人の事なり子貢子路のころより
とさまをへしりあまやしり事なりとものころを
学問より人と奉る人しは国をいり矢る人と奉る人
とを或とらとび又とたのふちうひあまび農工商雜ザ
類の籍セキあまびして仕官れあまびをふまのまじりとも

士あり

は國よ今れ役とら事なりこのころを紫よ官より
わう人のあまの村奉る人よあまびと必ぢなよの官なり
やしたるねしは國の人ハ朝官の官しりともあま
てこれ無官なりとらふるあり又ハ役に官しりふ
ちるあまのりそのもあれこの國あ一國りはしひな
と人を殺る人といとらね無官なりとらふるあり
た友ハ官は別ありあまびれ祿ともみて奉る人
官のなきしり事あまなりといふてさうなり
この職掌はあけて番一國りつしり人ハ直衛官を
しり事なり伴しりいも士よりあまのいり
この事なり

無官の古来なりといふを位階のありてなきの職掌と
さゆ名なりとこれ散官サンガンといふものなり無官とい
はばさるごとくわらわ人といふがふなりと

文政十三庚寅年春三月十有七日於益城郡原町
村寫之

芳洲先生をくれり中

芳洲先生南老海原公

まろくは詩の國の深奥なり事かたりにあるまじ
詩をけりよれいふいふいふ人ありは
さるごとくありては國の家をわたりていふは
あゝぬといふものもあるものもさるはえれは詩を
とけりてははなれをさつてはわたりてはさる
ほどなれはその力もさつてはさる人もたつては
さるまじりなりは詩をけりてはさるものありては
もえりては國のさるものありはさるものありては
詩をけりてはさるものありてはさるものありては
とまゝぬ人のことさるものありてはさるものありては
人のことさるものありてはさるものありては

る事もおもひこられよかたし

唐詩鼓吹唐詩選（ミ）のことも唐詩をなれど撰者のこのあるはあつ
たて書くなせりなれど唐詩はつたないあつたぬを
唐詩鼓吹とちよびて音調（シ）體製唐詩鼓吹（イ）似れんと
うまこと唐詩（ウ）うらえ唐詩選（ウ）なびく音調體製唐
詩選（ウ）似れなむこれと唐詩（ウ）うらぬさなはありま
詩を唐より採らんかむ（ウ）うらぬ（ウ）列（ウ）まけあり
やぶらぬよとむい人のあつひやりてかた
詩と作りふ字法句法（ウ）うらむあれど律詩と作り
章法（ウ）うらむと用ひ古詩長篇と作り（ウ）段落過句（ウ）
うら用ふ（ウ）まくれこれと詩と作り（ウ）臨節（ウ）なれど
うまよりこも入（ウ）つと功（ウ）老法人の作り（ウ）

それが一詩と作りて友なり人よ思や一詩の俗語とい
ひく事人よ作りたり事なれど他家といひやう
うら作りたりなれど俗意（ウ）うら（ウ）一詩と作り
一うらげも一うらなれど作りたり（ウ）一詩と作り
うら作りたり一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり
詩の款（ウ）とあり平仄（ウ）とあり（ウ）うら作りたりとあり人
一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり
そのり作りたり（ウ）一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり
ゆらんやある人の作りたり（ウ）一詩と作りたり
よき作りたり（ウ）一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり
紫（ウ）とあり（ウ）一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり
あつたは國の人なそのこと（ウ）一詩と作りたり（ウ）一詩と作りたり

一にさなりてりあつておりのなる人におりのよりそりてなく
は国をそけしよりなるやふいぬゆりかきしざれは五音
相通してはお免つちの向ひ我の理教よりなるものなれ
そのとや人たううんふもあつて西域より新りたりと
しるもの涅槃經の文字品候とてあるべし

は国をかきつりあをのさくいゆりぐみ字候ありんばよとり
人ありこれれおとほはさるはしをさるべしとらりてり又宗
西域の梵宗かゝる國の誘文は國のかまよ外韃靼紅夷のほじ
これく其國のこもよ應じなまこりてりよなくとこれ
よるべしむいませこれをとちふまこりてり我のこりりあたり
かなしふとのさるべしりかゝる國へのこりてりいふはひじ
から

は國の詩なり文うけよ人にもよる候はれにぞりてり
れがよるいふはさるべしとらりてり我のこりりあたり
どが宗のちがゆりてりなれこのをやめりてり
りあつて

わく人し物候せしほのそは宗國に之習はるをりゆあ詩よそりつ
これぞ歌曲にたりがしりかたりは韓人のあつてり
ゆりてりなれらよにたりこれにさるぬりてりあつてり
は國の人たそりてりよりてり詩なりとたがゆりてり
きりてりゆりてりあつてりしは詩なりとたがゆりてり
こりてりよりてり人たたつてりてりてり
人の詩文とるこりてりあつてりしは詩なりとたがゆりてり
ある人の詩文とるこりてりあつてりしは詩なりとたがゆりてり

又此の法ともありてなほ人の名あつてもあらずはふ
く書物なりといひてあさゆふうらびてふらうたり
くつりまば下と文字ありば市とみまらうぞしてふ
がうとれ顛倒して句讀とせしめをさるべし。又
瑕キダよりあつてしづと事なりとわたりて又正徳信使
の時、口の格ケイザンれが一人あつて一人ありては人いり
そのまをびしてがらでめをり又とだめをさるやうに
びあなりといふもくといふもくといふもをびしるはあ
その方ちくちくもまじりてこそ國の人と感せしむる
ある人吳音漢音といふはふらひのゆゑ吳音ハ韓コランの字音
漢音ハ毛モウの字音とありてあつたが年とていつ
となくば國のこゑとありしをさるせしむる

鎌カマタリ良の執政シヤチありて百濟ヒヤクサイの元法明ゲンホウメイといふその對馬タマとさなり
維摩經ヰモキヤウとてしるはこれとけしあつて吳音のこゑ
をりて政事要略とありてそつは國の吳音といふもの
今此の人の字音は似たりこれといふは出羽デツの松マツ敷シキとては
しめ法ホウのうとてしるは國の字音なり。又いつと
なく今此吳音とてしるはあつて
吳音といふは法明が維摩經ヰモキヤウとてしるは吳音なり
といひてなほ國の人ありしをさる。その國の字音
とてしるは吳音といふは國の人ありてしるは
事コト今ハ江南カンナンといふはびしるは吳音といひてしるは
とてしるは吳音なり。その事ハ吳音といひてしるは
國クニハ國クニとてしるは其の國はこゝとてしるは

とてつこくはるゑとやまをびては羽の松敷なりなりなり
聖武帝の御時吉備公入唐しては帰朝ありて孝謙帝の
御時十三代はつらひひこれ漢音なりと見聞
抄入るるなりとありされば今の漢音といふものなり
音は羽の松敷なりなりなりなりなりなりなりなり
へり事と今ハ唐音といふなり漢音といふなり
自注中臣鐫子為内大臣在三十七代 孝德帝朝而吉備
歸朝在四十六代 孝謙帝朝案國史十六代 應神帝
十五年百濟國王遣河直岐貢良馬河直岐能誦經曲太
子菟道推郎子延以為師河直岐薦同國人王仁以為勝
於已乃遣使聘之越翌年來朝亦師事之此時阿王二人
所授者當是韓者蓋韓者即吳音也則政事要略所云吳

音始於三十七代 孝德帝時者似乎可疑豈時世悠邈
字音訛誤至是釐而正之歟

此國の唐音はまをる人いふよりよみくらびて文のなかり
はくくわりのゆゑなりやそのことありやとよみやとくゆか
いふも唐音とよみくらびは信使よりよみくらひきなり
申字申といふものなりと唱和集よりみくらひ
孝謙天皇の十三代をきつりは吉備公歸朝ははるこ
こゑとがなりとよみくらひは信使よりよみくらひきなり
甚だかき事なりゆゑははるこゑとよみくらひきなり
其まことなりとよみくらひきなり
文字といふものもはるこゑとよみくらひきなり
此國ははるこゑとよみくらひきなり

ほろやめりていぬねの松懸きなりきぬていりやうらげら
てく字音とは用をていぬやうたりやうらぬねの松懸きなり
なりといりやう

知^シ客^カ一^カり^カ事^カも^カり^カ一^カの^カ字^カ音^カは^カは^カけ^カ一^カり^カは^カは^カ國^カの
人^カぞ^カれ^カと^カま^カま^カび^カい^カつ^カく^カ字^カ音^カを^カら^カり^カて^カ今^カい^カち^カう^カとい^カり
わ^カく^カも^カり^カ一^カも^カわ^カは^カ事^カあり^カは^カ國^カの^カけ^カき^カら^カて^カい^カら^カん
ま^カま^カび^カて^カか^カく^カ人^カは^カ各^カ其^カ素^カ利^カと^カい^カは^カ國^カの^カつ^カま^カび^カい^カれ^カと
ま^カま^カび^カて^カえ^カり^カ一^カ人^カは^カ讀^カ急^カと^カい^カ土^カ器^カと^カり^カ風^カ氣^カの^カら^カひ
聲^カ音^カの^カお^カき^カ一^カわ^カく^カぬ^カゆ^カお^カく^カに^カ寝^カど^カり^カら^カり^カは^カあ^カる^カ古
董^カ客^カと^カい^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カの^カ國^カと^カい^カて^カま^カま^カび^カい^カけ^カも
の^カう^カり^カも^カその^カ國^カの^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カは^カ國
と^カい^カあ^カや^カら^カり^カて^カむ^カす^カ一^カや^カ一^カり^カを^カら^カり^カか^カら^カり^カた^カあ^カま^カり

か^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
つ^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
よ^カう^カり^カも^カあ^カら^カり^カ一^カも^カり^カ一^カ今^カ人^カの^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
音^カも^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
も^カあ^カひ^カと^カり^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
の^カ漢^カ音^カ異^カ音^カは^カ事^カだ^カい^カつ^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ
一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ一^カま^カま^カび^カい^カる^カ

助^チ語^ゴの^チ事^ゴ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チ人^チあ^チり^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チ人^チあ^チり^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ
事^チを^チら^チや^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ
一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チ人^チあ^チり^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ
一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チの^チ國^チは^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ
り^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チは^チ國^チの^チ人^チあ^チり^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ一^チま^チま^チび^チい^チる^チ

うらむりてもえりこゝへいりあやめさづけさかき入る

おらぶさうしうきこゝりふき

たけ^即け^語し^語こゝりふき^即か^語あ^語は^語あ^語け^語り^語こゝり^語て

かぞひるたひひきりこゝり^{次第}のほいでちかひきり事^記事^の

又^学ま^時そ^習り^習け^習た^習ま^習よ^習け^習る^習もの^習ほ^習の^習ま^習あ^習わ^習く

た^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

い^習ひ^習て^習熟^習き^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

の^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

人^習よ^習ま^習の^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

く^習り^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

の^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

は^習あ^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

な^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ら^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

そ^習れ^習が^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

わ^習さ^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ち^習り^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ら^習り^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

あ^習ひ^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ま^習り^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ま^習の^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ま^習よ^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習ま^習よ^習け^習る^習

ゆきごころれうくあされたりあひむとがふ事なりと云
れどもさういふまじい道なきを説くもさういふまじい道なき
あきううさういふ事多しそのあきううさういふ事多し
て記^{ナカ}懐^{ナカ}ちの事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
譯^{ヤク}語^ゴといふ事さういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多し
おそれなきさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多し
わさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
うごりなきれうくあされたりあひむとがふ事なりと云
らうさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
と云ふはあきううさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多し
ほけりなきれうくあされたりあひむとがふ事なりと云
とあきううさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ

あきううさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ

ある人佛を敬するはよくはなす又と云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
法の悪業をのこすはよくはなす又と云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
およむ人がくはよくはなす又と云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
かきあはよくはなす又と云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
さういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
うごりなきれうくあされたりあひむとがふ事なりと云
明^シ陳^チ繼^キ儒^{ニョ}が佛氏と天下の大養濟院をうけしむる事^{キセイ}世^セ乃^ノ特^{トク}
見^ミなるべし韓^{カン}匡^{クワン}もさういふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
三代とてはりしと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ
五倫といふも天下に於ていふ事多しと云ふはあきううさういふ事多しと云ふ

戚屬一^{ヒキゾク} 臣一^シ 子^コ 士^シ 夫^フ 之^ノ 朝^{テウ} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
工^{コウ} 高^{コウ} 婢^ヒ 者^者 奴^ヌ 僕^{ボク} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
孫^{ソン} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
從^{ジュウ} 之^ノ 從^{ジュウ} 黨^{トウ} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
夫^フ 姑^コ 戚^シ 屬^{ゾク} 一^{ヒト} 婦^フ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
子^コ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
子^コ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
人^{ニン} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
慶^{セイ} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
善^{ゼン} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ

あまのり人のいささか
杭州道林禪師人目為鵲巢和尚百居易尚佛法大意
師曰諸惡莫作衆善奉行

ものよみきり人やもとまじバ鬼神の事候そりくよおもへるせれ
ねむしよまをせね人乃ほもあまこひ^{イシ} 濱^シ 礼^レ とあふとあを
えびせおたよりて念候^イ 慶^イ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
あり人非ハ聰明^{オウメイ} 正直^{シュウジ} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
ねむしよまをせね人乃ほもあまこひ^{イシ} 濱^シ 礼^レ とあふとあを
えびせおたよりて念候^イ 慶^イ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
あり人非ハ聰明^{オウメイ} 正直^{シュウジ} 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ
ねむしよまをせね人乃ほもあまこひ^{イシ} 濱^シ 礼^レ とあふとあを
えびせおたよりて念候^イ 慶^イ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ 一^{ヒト} 有^ル 之^ノ 女^メ

さかぞかろりきり事よあしねど海へ今降し
人のしるは言詞は有り人を感ずるありや頭上
尺の末にさきいさきよとわが政公はひのわたり
は國天をわたりいなく禁し遠慮をさき
らふていはいわたりいづ共やうんぬん
正徳れしりあはれいめされあがり
ものありて諸事ありし人そのよ
いふ事とぞいふいふいふいふ
のいふ事とぞいふいふいふ
まじりていふいふいふいふ

ずんくふいふいふいふいふいふ
の人とぞいふいふいふいふ
あやふいふいふいふいふいふ
そいふ事とぞいふいふいふ

林の慈深ぐ石臥床なりおとひして
王充が論衡は謀なりいふいふ
あまふ人よならいふいふ
いふいふいふいふいふいふ
ありはいふいふいふいふ
まじりていふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

芳洲といふは對州の文學なる此
書を著して家よりせり正に信使
法時彼國の正人趙泰億といふ人
留ありたりあり四絶海誰高士芳
洲猶妙云能通法國語且誦百
家書若拓寧能其本業儘有
餘明朝萬里別國の意何れ其
州の才在ほくある一たよ録

鳩巢老人 貞信 跋

文政十三庚寅三月廿日書蘇州縣
礪用鄉寫之

中村直衛

薰箱錄卷之七十一終

薰箱錄卷之拾參終

